



発行者 文京学院大学 女子中学校 南部 和彦

最優秀賞をとって (三年生最優秀賞)

中学最後の合唱コンクールで最優秀賞がとれたことが本当に嬉しかったです。

私たちの自由曲「Jupiter」は、アルトが難しく音をとることが大変でした。ソプラノは音が高いので強弱がつけにくく、アルトと合わせるアルトの声が聞こえなくなっていました。全体では歌詞がなかなか覚えられないなど課題がたくさんありました。課題曲の「上を向いて歩こう」では、英語の発音をそろえるのが大変でした。また、アルトとソプラノが分かれるところで、「ルー」と歌うのをアルトが忘れてたりして、こちらも課題がありました。しかし、指揮者の岡谷さんを中心に練習をし、みんな、一つずつ課題を乗り越えていきました。

合唱コンクール当日、三年生のトリであり、全体のトリであることに、私達はすごく緊張していました。舞台裏でスタンバイしている時に、「笑顔で頑張ろう」「できるよ」とお互いに声をかけあつて緊張をほぐしました。でも、いざ舞台上に立つと、三回目なのにやはり緊張し、笑顔が作れなくなっていました。そんな時、指揮者に集中することで、緊張もとけて笑顔になることができました。歌っている途中で感極まって泣きそうになりました。歌い終わって、舞台裏に戻ってきた時、自然と涙があふれてこのクラスで良かった。このクラスの二員で良かったと心の底から思いました。

全員が歌いやすい指揮を目指して 優秀指揮者賞

二十九人全員が楽譜を見なくても指揮ですべてが分かる・・・そういう指揮をすることが今回の目標でした。難しかったのは、歌の心情を伝えられる指揮をすること。fは強く感じているように、pはささやきかけるように歌ってもらえるよう振ることを心がけました。すると、だんだん感情が伝わってくるようになったのです。私の指揮が松組の優勝の役に立てて良かったです。最優秀指揮者賞をいただいたのも、クラスのみんなのおかげです。

皆の応援を支えられて 優秀伴奏者賞

私は三年間課題曲を弾いてきて、今年最後の合唱コンクールでした。そして私は、三年連続で最優秀伴奏者賞を

いただくことができました。本番前、緊張していた私に「美帆ならできるよ!」とクラスの皆から言葉をかけてもらい、救われ励まされました。三栗のみんなと担任の西山先生には心から感謝しています。合唱を通してクラスの絆が深まったこともとても嬉しいですね。

最後の合唱コンクール 優秀伴奏者賞

綺麗なハーモニーを作るためにパートごとにそれぞれの課題に取り組み、練習を重ねてきました。私もみんなの合唱に合うように一生懸命練習しました。クラスがまとまるにつれて、綺麗なハーモニーになり、最後の練習では伴奏しながら感動で泣いてしまうくらい素晴らしい合唱に仕上がりました。私が最優秀伴奏者賞を取れたのも、みんなの歌に合わせてやすかったこと、そしてみんながずっと支えてくれたおかげです。みんなで頑張った練習、笑顔、涙・・・全部最高の思い出です。

絆 (二年生最優秀賞)

私の合唱コンクールは、指揮者という立場で迎えることになりました。不安もあつたけど、クラスの友人に励まされ、全力で頑張ろうと思えました。自由曲が「手紙」に決まり初めての練習。声も出ていない、歌詞も覚えていない、笑顔もないと、絶望的な状況でした。それに加え休日や台風による休校の影響で、音楽の時間に指導していただくことが出来ませんでした。そこで自主練習にかけるしかないと決意しました。

本番十一日前、朝と放課後の練習がスタートしました。桃組は朝に弱い人が多く、きちんと集まれるか心配でしたが、全員がきちんと練習に参加してくれました。私は、自分の好きなミュージカルのように、感動を与えられる合唱にしたいと思っていました。そこで声に強弱をつけることや、歌詞の意味を考えて歌うこと、笑顔で歌うことを意識するようにクラスをリードしました。すると合唱はどんどん上手になっていきました。休み時間にみんなが口ずさむ歌声から、桃組が一つになつていくのを感じました。

最後の練習では、最初の歌声とはまるで別人が歌っているかのように、きれいなハーモニーを作ることが出来ました。全員で円陣を組み、本番に向けて気合をいれました。そして本番、私は緊張で足や口が震えましたが、クラスの全員が今まで頑張ってきた成果を全部出し切つて、最高の笑顔で楽しく歌いました。

結果発表では、どんどん近づいてくる最優秀賞の発表に心臓が飛び出しそうでした。二年桃組が呼ばれたとき、私は喜びのあまり号泣してしまいました。この最優秀賞は桃組全員が団結し頑張ってきた証だと思えます。今回の合唱コンクールで桃組の絆がより深まったと思います。最高の思い出を作ることが出来ました。

家族に感謝仲間感謝 優秀指揮者賞

私が優秀指揮者賞を頂いたとき、嬉しさや悲しさなど、色々な気持ちがあふれてきました。練習期間中は、暗い気持ちになることもありましたが、クラスが団結することが出来ました。私が、このよう賞を頂くことができたのも、家族や友達に支えられたおかげです。合唱コンクールを通じてそばで応援してくれる人のありがたみを感じました。

優秀伴奏者賞

合唱コンクール当日、クラス全員で「絶対優勝するぞ」と円陣を組んだことが印象に残っています。練習中は、皆の歌声と伴奏を合わせるのに精一杯で、音の強弱や音量の調節をすることがなかなか出来ませんでした。クラス全員が頑張っている姿を見て、伴奏者として、自分が何を出来るか考え、家で何度も練習しました。今回は、すばらしい賞を頂いて、皆と喜び合ったことを忘れません。

合唱コンクールを終えて 優秀伴奏者賞

名前を呼ばれた時には思わず耳を疑いましたが、本当に自分の名前が呼ばれたのだと分かったときは、飛び上がりました。なるほどの気持ちでした。どうせ弾くなら賞を取りたい。でも本番前夜にはその気持ちはすっかりなくなり、松組のみんなに迷惑をかけるまいと弾く事に決まっていた。練習でうまくいかなくてやめたいと思つたこともあつたけれど、松組の歌と私のピアノが一体になったことを何よりも嬉しく思いました。

Oh Happy Day (一年生最優秀賞)

私は合唱委員として、どうやってまとめたら良いのかを考えました。それと同時に、合唱委員の役割に不安を感じていました。なぜなら、菊組は他のクラスに比べて、練習量が少なく、うまさにも差があったからです。けれども合唱コンクールが近づくにつれて、だんだんとみんなの気持ち一つになつていきました。途中、トラブルが起こりましたが、それを乗り越えることで、クラスの団結力を一層深めることができました。

合唱コンクールが迫ってくると、練習もシビアになりました。特に課題だったのは笑顔でした。音楽の先生にも指摘されましたが、私たちの選んだ曲は「Oh Happy Day」で楽しい一日というくらいですから、怖い顔、悲しい顔では、歌詞の意味を全く伝えることができません。笑いながら歌うなんて簡単と思う人もいるかもしれませんが、意外と難しいことでした。合唱委員が前で一人ひとりの笑顔のチェックをして、全員が笑顔で歌えるように特訓しました。

本番の日はずっと緊張しましたが、「カントリーロード」はとても声が出ていたし、「Oh Happy Day」も、アルト・ソプラノのハーモリがきれいでした。さらに、私たちが手を叩いていた時に、会場の人たちも一緒に叩いてくれ、会場が一体になった気がしました。終わった時には達成感と幸福感でいっぱいでした。

中学最初の合唱コンクールで、最優秀賞をとりたい気持ちがありました。最優秀賞をとれるとは思わなかったのに、発表された時は友達と歓喜の声をあげました。まさに、「Oh Happy Day」でした。一年生でクラスが替わつたら、お互いが優勝目指して切磋琢磨できたらいいと思います。

優秀指揮者賞

はじめての合唱コンクールで指揮者を務めました。はじめは、何をやらしたらよいかよくわからず、みんなをまとめられるかとても不安でした。しかし、練習を進めていくうちに、みんなが自分の出す指示をよく聞いてくれました。また、心強かったのは合唱委員の三人が一緒にまとめてくれたことでした。そうやって練習した結果、素晴らしい歌声をつくり出すことができました。本番では、最初は緊張しましたが、みんなの精一杯歌つてくれた姿を見て、落ち着くことができ、私は堂々と指揮を振ることができました。だから、私が指揮者賞をとれたのは、一票の一人ひとりの力の結集だと思います。

優秀伴奏者賞

音楽の授業で初めて伴奏をした時はとても緊張していました。しかし、日々練習を重ねるうちに、どういふ風に弾いたら皆が気持ちよく歌えるのか、曲の魅力を引き出すことができるかなど工夫しながら練習しました。また、私は、合唱委員でもあつたので、クラスをまとめていかなければならず、クラスの意見が分かれたりした時は大変でした。でも、本番はクラスが一つになつていっているのを感じながら弾くことができました。伴奏者賞を受賞することができ、とても嬉しく思います。

優秀伴奏者賞

私は、課題曲「カントリーロード」の伴奏をしました。私は、今年初めての合唱コンクールで、練習の段階では歌や指揮などからずれてしまうことがありました。本番当日、松組は一年生で一番最初の発表だったので、とても緊張していました。でも、本番は上手に弾くことができ、本番によかったです。それに優秀伴奏者賞に選ばれたこともとてもうれしかったです。



裏面です

中1 最優秀賞



中2 最優秀賞



中2最優秀指揮者賞 伴奏者賞



中3 最優秀賞



最優秀賞

